

教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 星 信 子

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
1. 心理学	1)教育心理学	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1)「保育の心理学Ⅰ」「発達心理学」、「発達心理学Ⅰ・Ⅱ」及び「児童心理学」の学生教育指導(札幌大谷大学短期大学部保育科教授・准教授)(浅井学園大学短期大学部こども学科助教授(平成19年3月まで))	平成13年4月 ～現在	発達心理学の基礎的な知識を習得することが主たる目的であるが、心理学的な考え方や子どもの発達をとらえるために必要な視点・方法などについても理解させるよう努めている。講義の際には毎回詳細な資料を用意し、常に新しい研究成果に基づいたデータや事例を提供するとともに、市販の視聴覚教材に加えて、教員自身の研究事例や実験場面の独自のビデオ教材を使用し、理解の助けとなるよう工夫している。さらに、大人数の講義での学生との意見交換のために提案された大幅帳形式を取り入れ、学生からの質問や意見に個別に対応している。
2)「保育内容人間関係」の学生教育指導(札幌大谷大学短期大学部保育科准教授)(帯広大谷短期大学非常勤講師(平成24年より))	平成19年4月 ～現在	幼稚園・保育所における保育内容の5領域の一つ「人間関係」に関する基本的な考え方や、子どもの対人関係の発達やそれに対する保育者の援助について学習することが主たる目的である。保育内容の考え方や保育者の援助に関しては、事例を多く取り入れる中で、保育者養成の教科書を分担執筆した経験等を活かし、基礎的な知識をきちんと習得させることに力を入れている。また、個別に取り組む各種演習課題に加え、指導案を作成しての模擬授業や、学習成果を発表する場を設け、学生が相互に学びあう機会としている。
3)「発達心理学特論Ⅰ・Ⅱ」の学生教育指導(札幌大谷大学短期大学部教授・准教授)	平成19年4月 ～現在	専攻科保育専攻の科目である。発達心理学の基礎的な学習を終えた学生が、さらに研究領域・方法について理解を深めるために、実際の研究に触れることが内容の中心である。Ⅰでは、様々な論文を読み討議を行い、Ⅱでは様々な研究法を実際に体験し、レポートの作成を行う。心理学的な知識をしっかりと持ち、保育の実践の出発点とも言われる子ども理解に各自が役立てることを目的としている。
4)「人間関係発達論」の学生教育指導(札幌大谷大学短期大学部教授・准教授)	平成19年4月 ～現在	専攻科保育専攻の科目である。前半は、生涯に渡る人間関係の発達について論じ、後半では愛着の発達に焦点を絞って詳しく学習するという内容である。すでに人間関係の発達についての基礎的な知識を習得している学生が対象であるので、知識を深めるだけでなく、授業の中での討議を通じて、個々の学生が自分なりの考え方を検証する過程を大切にしている。
5)「保育内容言葉」及び「子どもの言葉指導法」又は「幼児の言葉」の学生教育指導(北海道教育大学非常勤講師)(北海道浅井学園大学短期大学部初等教育学科専任講師及び浅井学園大学短期大学部助教授(平成19年3月まで))	平成11年4月 ～現在	幼稚園・保育所における保育内容の5領域の一つ「言葉」に関する基本的な考え方や、子どもの言語発達やそれに対する保育者の援助について学習することが主たる目的である。乳幼児期の子どもたちの言語発達を支える保育者の援助について考えるための基礎的事項として、乳幼児期の言語発達の理解について、特に自身の専門的研究を活かした講義・演習内容とするよう努めている。また、保育実践に向けてパネルシアターの作成を取り入れ、受講者全員が作品を仕上げ発表する機会を設けている。

事 項	年月日	概 要
<p>6) 「修了研究」「基礎ゼミナール」「総合演習」「ゼミナール」の学生教育指導(札幌大谷大学短期大学部保育科教授・准教授)(北海道浅井学園大学短期大学部初等教育学科専任講師及び助教授(平成19年3月まで))</p> <p>7) 「保育の心理学Ⅱ」の学生教育指導(札幌大谷大学短期大学部保育科教授)</p>	<p>平成11年4月～現在 (途中中断あり)</p> <p>平成24年4月～2020年3月まで</p>	<p>学生の各自の関心に応じて目的を定め、具体的な研究活動に基づいた成果を一定のレポートにまとめることが目的である。特に研究目的設定の段階では学生の関心が漠然としたものであることも多く、具体的に実行可能な内容までつめていくプロセスを重視している。可能な限り科学論文としての体裁を備えた報告を作成することを目標として取り組むよう、指導している。</p> <p>人間の発達や学習に関わる様々な基礎理論を概観しつつ、子どもの生活や遊びの中での学習過程とその発達の様相、さらには発達の段階や課題に応じた援助やかかわりについて考えていくオムニバスの演習である。担当部分の内容は、保育実践における子ども理解の重要性と、子ども理解に基づく援助を行うための様々な視点や具体的方法を学び、実際の援助について考えるというものである。各種測定などを実際に行う中で、各自の体験に基づき理解を深める事ができるよう配慮している。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <p>1) 「子どもの育ちを支える発達心理学」 第8章 自己と感情の発達</p>	平成25年1月	<p>保育養成機関における発達心理学のテキストの一部を分担執筆したものである。第8章は乳幼児の自己と感情の発達について述べた章である。子どもの精神発達の最も基本的なものの一つである自己の形成について、自己への気づきから児童期までの自己認識の発達、自己制御の発達について述べるとともに、感情表出、感情的知性の発達についても解説している。 編者：高櫻彩子、請川滋大 著者：請川滋大 結城孝治他</p>
2) その他		<p>各講義において進行に併せて独自の講義資料を提示すると共に、心理学実験場面を撮影したビデオ教材などを作成している。</p>
3 教育上の能力に関する大学等の評価		<p>当該教員は、これまでの乳幼児期の情動発達や母子関係の発達に関する各種縦断研究に継続的に深く従事し、多くの論文を発表し、その成果は内外に高く評価されている。現在本学において、「発達心理学」「人間関係発達論」「保育内容の人間関係」等を担当し、これら講義・演習などにおいて、教材の工夫や具体的な機器の活用など、指導効果を高め、学生の評価も高く、教員として優れた実践を展開している。以上研究上の実績並びに教育歴から、担当科目を教授する資質を十分に有すると評価する。</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1) 講演 「赤ちゃん人とのかかわり」</p> <p>2) 講師 「こどもの変化についての理解」</p> <p>3) 講演 「赤ちゃんの世界」</p> <p>4) 講師 「赤ちゃんの世界」</p> <p>5) 講師 「乳児期の発達と支援のあり方」</p>	<p>平成22年10月</p> <p>平成23年12月及び 平成24年7月及び 平成25年7月</p> <p>平成25年11月</p> <p>平成26年7月</p> <p>平成29年11月及び平成30年8・10月、2019年8・12月</p>	<p>日本音楽療法学会北海道支部 第18回研修会 北方圏学術情報センター ポルト</p> <p>平成23・24・25年度教員免許更新講習必修A 札幌ガーデンパレス</p> <p>札幌大谷大学公開講座</p> <p>第63回北海道高等学校家庭科教育研究協議会保育セミナー</p> <p>乳児保育担当保育士等研修</p>

事 項	年月日	概 要		
6) 講師 「幼児の発達に応じた保育内容」	2019年8月	令和元年保育士等キャリアアップ研修		
5 その他				
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項				
事 項	年月日	概 要		
1 資格, 免許	昭和61年3月 昭和61年3月 平成7年3月 平成12年10月 平成16年3月	中学校教諭一種免許状 (社会) 高等学校教諭二種免許状 (社会) 養護学校教諭二種免許状 学会連合資格「学校心理士」 (学会連合資格「学校心理士」認定運営機構) 学会連合資格「臨床発達心理士」 (学会連合資格「臨床発達心理士」認定運営機構)		
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 する 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 「子どもの育ちを支える発達心理学」8章 自己と感情の発達	共著	平成25年1月	朝倉書店	(前掲書)
(学術論文) 1. 成人用気質質問紙(ATQ)の心理測定的性質の予備的検討	共著	平成24年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第42号	成人用気質質問紙であるATQの心理測定的性質の検討を行うための基礎的なデータを提供することを目的とし、信頼性の検討・2グループのデータの比較・性差の検討を行った。 著者：星信子・草薙恵美子 掲載頁：57-63 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2. 子どもの気質発達についての学際的研究—予備調査結果をふまえて—	共著	平成26年3月	國學院大學北海道短期大学部紀要第31号	幼児の気質発達を規定する諸要因について検討するプロジェクトの研究計画、及び予備調査結果についての報告である。母親の気質的特性と養育態度との間には関連がみられ、さらに子どもの気質に影響している可能性が示唆された。 著者：草薙恵美子、星信子、陳省仁、安達真由美、高村仁知、大石正 掲載頁：11-27 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 3. The development of child temperament and the presence of sibling	共著	平成26年9月	Proceedings of the 16 th European Conference on Developmental Psychology (Lausanne, September 3-7, 2013)	子どもの気質発達における家庭構成員の存在の影響を検討し、多くの家族メンバーと共に生活すること、日本的育児の様式、兄弟の存在等の気質発達への影響が明らかであること、またその様相が男女児で異なるという結果を得た。 著者：Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura, and Tadashi Oishi 掲載頁：129-132 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
4. 実習事前指導としての指導実習 -実習力アップに焦点をあてて	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号	学生たちが実習力（実習までに培ってきた技術や理論であり現場で実践する学生レベルの保育力）を高めるには、不安を軽減し意欲を持って実習に臨むことが基になると考えた。実習事前指導であるグループ実習での準備・実践・省察、各段階の様々な場面での刺激や誉められ体験などが意欲、自信に繋がったと振り返りレポートから分析した。今後振り返り、模擬保育などでの子どもの姿を予想することを習慣化し、子どもとの関わりを多様にイメージできることが実習力をさらにアップさせると考察した。 著者：秋山ゆみ子、星信子、大澤亜里、大西道子 掲載頁：pp. 107-120 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5. 子どもを理解し言葉の発達を支える保育者の養成	共著	平成29年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第47号	「保育内容（言葉）」の授業実践について報告をし、その成果と課題を明らかにしている。学生は、授業を通して子どもの言葉や表情、行動を通して子どもの内面や援助のあり方について考察すること、他者と意見交換をする中で様々な捉え方や考え方に気づくこと、実際の子どもの姿を通して言葉の発達過程を理解することができた。一方で発達過程に応じた言葉の発達の援助については十分に考察できていなかった。 著者：大澤亜里、星信子、秋山ゆみ子 掲載頁：pp. 121-127 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 6. Children's Hair Mercury Concentrations and Seafood Consumption in Five Regions of Japan	共著	平成30年1月	Archives of Environmental Contamination and Toxicology (2018) 74	<p>今までほとんど研究がなされてこなかった、日本の幼児期のメチル水銀曝露について5つの地域の3~6歳の118人を対象に調査し、魚介類消費の地域差等との関連について検討した。約40%の子どものメチル水銀の毛髪中の濃度がユナイテッド州環境保護局の勧告値を超えていた。また、毛髪中のメチル水銀濃度には有意な地域差が見られ、伝統的な脂肪魚を食べるパターン、特にマグロの消費の影響が見られた。</p> <p>著者：Emiko Kusanagi, Hitoshi Takamura, Shin-Jen Chen, Mayumi Adachi, Nobuko Hoshi 掲載頁：pp. 259-272 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
7. 子どもの人間関係の育ちを支える保育者の働きかけ—保育者養成課程に在学する学生の実習中の気づきから	共著	平成30年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第48号	<p>保育者養成課程に在学する学生213名が実習中にとらえた保育者の働きかけを分類することで、子どもの人間関係の育ちを支える保育者の働きかけの実際について検討した結果、保育者の働きかけは、対象とする子どもの年齢に応じて、子どもの抛り所となるものから、子ども達の自律的な共同を見守るものまで、段階的に変化していた。また、その内容は非常に多岐に渡り、保育内容の領域「人間関係」の内容をほぼ網羅していた。さらに、幼稚園と保育所の保育者では、力を入れている内容が異なっている可能性が示唆された。</p> <p>著者：星信子、秋山ゆみ子、大澤亜里 掲載頁：pp. 81-89 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
8. 日本語版「児童期中期における気質質問紙(TMCQ)」の心理測定的性質	共著	2020年3月31日	札幌医科大学医療人育成センター紀要、11号	<p>この研究の目的は、日本語版「児童期中期における気質質問紙(TMCQ)」の信頼性と因子構造を明らかにすることである。内的整合性は“弱い刺激への快”を除いて適切であり、主成分分析によって、ロスバートの気質のモデルと一致する3つの主成分が得られた。</p> <p>著者；高橋義信、草薙恵美子、星信子 掲載頁：pp. 1-4 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (学会発表)</p> <p>1. 乳児の泣きに対する母親の反応—生後1年間の縦断的な記録から—</p> <p>2. 子どもと母親の気質と生活—母親の気質に関連する諸要因についての予備的検討</p> <p>3. 子どもと母親の気質と生活—子どもの気質に関連する諸要因についての予備的検討</p> <p>4. 子どもの気質と家庭環境</p> <p>5. 子どもの気質と家庭生活</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成22年3月</p> <p>平成24年11月</p> <p>平成24年11月</p> <p>平成25年3月</p> <p>平成25年3月</p>	<p>日本発達心理学会第21回大会発表論文集</p> <p>日本教育心理学会第24回総会発表論文集</p> <p>日本教育心理学会第54回総会発表論文集</p> <p>日本発達心理学会第24回大会発表論文集</p> <p>日本発達心理学会第24回大会発表論文集</p>	<p>生後1年間の母子相互作用を家庭内で縦断的に観察した結果から、母親の泣きに対する対応（原因の推測、泣きへの感情など）の変化について報告した。 著者：星信子・陳省仁・氏家達夫 掲載頁：271 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>子どもの個人差に影響を与えていると考えられる気質が、母親の信念や育児行動とどのような関連を持つのかについて探索的に検討し、エフォートフルコントロールの高い母親が望ましい育児行動を多く示すという結果を得た。 著者：星信子・草薙恵美子・高村仁知・安達真由美・陳省仁・大石正 掲載頁：378 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>子どもの気質発達に影響を与えると考えられる様々な要因について幅広く取り上げ、その関連性について探索的に検討し、母親の気質が関連するという結果を得た。 著者：草薙恵美子・星信子・高村仁知・安達真由美・陳省仁・大石正 掲載頁：377 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>幼稚園と保育所の子どもの気質の際について検討し、両者に差があることを明らかにした。 著者：草薙恵美子・星信子・陳省仁・安達真由美・高村仁知・大石正 掲載頁：192 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>子どもの気質的特徴と母親の養育信念との関係について検討し、両者に関係があること、そしてさらに養育者の信念は幼保の違いや家庭の収入と関連することを示唆する結果を得た。 著者：草薙恵美子・星信子・陳省仁・安達真由美・高村仁知・大石正 掲載頁：192 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (学会発表)</p> <p>6. Which Influences Japanese Young Children's Home Environment, Daycare System or Annual Income?</p> <p>7. Relations Between Preschool Education and Children's Temperament in Japan.</p> <p>8. Factors influencing the anxiety of parenthood: views from Japanese mothers with young children</p> <p>9. Presence of siblings and the development of temperament</p>	<p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p> <p>共著</p>	<p>平成25年4月</p> <p>平成25年4月</p> <p>平成25年9月</p> <p>平成25年9月</p>	<p>Society for Research in Child Development 2013 Biennial Meeting</p> <p>Society for Research in Child Development 2013 Biennial Meeting</p> <p>16th European Conference on Developmental Psychology</p> <p>16th European Conference on Developmental Psychology</p>	<p>幼児のいる日本の家庭環境に家庭の収入と幼保の差が関連しているかどうかを検討し、収入の影響が大きいという結果を得た。 著者： Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Mayumi Adachi, Shing-Jen Chen, Tadashi Oishi, Hitoshi Takamura 掲載頁：287 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>日本の幼児の気質について、幼稚園と保育所の違いがあるかどうかについて検討し、幼保に違いがあり、保育所の子どものエフォートフルコントロールが高いという結果を得た。 著者： Emiko Kusanagi, Mayumi Adachi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Tadashi Oishi, Hitoshi Takamura 掲載頁：343 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p> <p>親としての不安に影響を与える母子の特徴や社会経済的要因について検討を行い、不安の有無には、母親や子どもの否定的な感情や行動の特徴、また年収の低さが影響しているという結果を得た。 著者： Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura and Tadashi Oishi 掲載頁：94 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p> <p>子どもの気質発達における家庭構成員の存在の影響を検討し、多くの家族メンバーと共に生活すること、日本の育児の様式、兄弟の存在等が気質発達に影響を及ぼすという結果を得た。 著者： Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura and Tadashi Oishi 掲載頁：97 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (学会発表) 10. Parenting behaviors, activity sharing and maternal beliefs in Japan</p>	共著	平成25年9月	16th European Conference on Developmental Psychology	<p>幼児をもつ母親の発達信念、発達期待、育児イメージと養育行動の関係について検討し、母親の信念が食事のメンバーや、子どもへの読み聞かせや合唱などの教育行動に関連するという結果を得た。 著者：Shing-Jen Chen, Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Mayumi Adachi, Hitoshi Takamura and Tadashi Oishi 掲載頁：97 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
<p>11. 乳幼児を対象にした気質研究の現在：研究史上の流れと今後の展望から考える</p>	共著	平成25年9月	日本心理学会第 77 回大会発表論文集 公募シンポジウム	<p>主に乳幼児を対象に気質研究を行ってきた国内研究者が自らの研究をわが国における気質研究史上に位置づけ、今後の気質研究の展望を考えるシンポジウムにおいて話題提供を行った。 企画者：水野里恵, 草薙恵美子 話題提供者：草薙恵美子, 星信子, 水野里恵, 指定討論者：森口祐介 掲載頁：SS(29) 担当部分：子どもの気質発達に影響を与える諸要因に関する研究を報告した。</p>
<p>12. 幼児期の気質発達 - 母親妊娠中及び子どもの食事との関連</p>	共著	平成25年9月	日本心理学会第 77 回大会発表論文集	<p>母親妊娠中及び現在の子どもの食事内容について調査し、気質との関連性について検討し、子どもの気質発達が、母親の妊娠中食品摂取状況及び乳児期栄養、幼児期の食品摂取状況と関連するという結果を得た。 著者名：草薙恵美子、星信子、高村仁知、安達真由美、陳省仁、大石正 掲載頁：1048 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
<p>13. 幼児の気質の時代変化—1992、2002、2012年の比較</p>	共著	平成26年3月	日本発達心理学会第 25 回大会論文集	<p>1992年から10年ごとに国内の幼児を対処に行ってきた気質調査の結果である。その結果、2002年から2012年にかけては殆ど変化が見られないことが明らかとなった。 著者：草薙恵美子、星信子、陳省仁、安達真由美、高村仁知、大石正 掲載頁：124 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (学会発表) 14. Factors influencing Japanese preschoolers' involvement in musical play at home.</p>	共著	平成26年8月	13th International Conference on Music Perception and Cognition.	<p>子どもの音楽遊びへの関わりは他の遊びタイプの影響を受けること、また発達の及び環境的要因の双方と関係することを示した。家庭での幼児の音楽遊びにおける個人差への決定要因をパス解析により詳しく説明した。</p> <p>著者：Huo, X. Y., Adachi, M., Kusanagi, E., Hoshi, N., Chen, S., Oishi, T., & Takamura, H. 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
15. 母親の気質と子育て	共著	平成26年11月	日本教育心理学会第56回総会	<p>母親の育児行動は、気質的特徴のタイプにより異なることが示され、特に否定的感情の強いタイプの母親は、育児に自信が無く、子どもの社会的かかわりの機会が少なく、自分自身は人とのつきあいを避けるといったあまり望ましくない傾向がみられた。</p> <p>著者：星信子、草薙恵美子、安達真由美、陳省仁、高村仁知 掲載頁：832 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
16. 子どもの気質と遊びのタイプ	共著	平成26年11月	日本教育心理学会第56回総会	<p>子どもの気質は遊びの種類と関係し、特に EC 発達と音楽遊びが関連することが判明した。「音楽遊び」の因子尺度には歌や踊り、楽器演奏項目が含まれるが、これらの遊びには外的刺激(メロディやテンポ)に合わせる、即ち、自己コントロールする、という側面が含まれる。この様な遊び特性が EC 発達を促すのかもしれないが、逆に EC 発達の進んだ幼児がこれらの遊びを好んで行っているという可能性も排除できない。</p> <p>著者：草薙恵美子、星信子、安達真由美、陳省仁、高村仁知 掲載頁：831 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (学会発表) 17. 日本5地域の子どもの毛髪水銀量と魚摂取	共著	平成26年12月	環境ホルモン学会第17回研究発表会	<p>子どもの毛髪水銀濃度には地域差が認められ、他地域に比べて脂の多い魚をより多く摂取していた山梨県の子どもの毛髪水銀濃度は他と比べて高かった。また、毛髪水銀濃度と魚介類摂取頻度の間には有意な関係があり、特に採取した毛髪が長く、測定量が多い場合、その相関値は高かった。さらに、ダイオキシン類摂取推定値の中央値は12.13 pgTEQ/kg 体重/週、水銀摂取推定値の中央値は1.47 μg/kg 体重/週であった。</p> <p>著者：草薙恵美子, 高村仁知, 星信子, 陳省仁, 安達真由美, 大石正 掲載頁：p-03 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。</p>
18. Predictability of the household economic factors on the temperament of Japanese children	共著	平成27年9月	17 th European Conference on Developmental Psychology	<p>家庭環境及び子どもの通園施設経験のどちらが子どもの気質発達に影響するかを検討した。結果、子どものESは通園施設の、またECは世帯年収が子どもの気質発達に関連することが明らかとなった。否定的情動に関してはこれらの影響は見られなかった。</p> <p>著者：Nobuko Hoshi, Emiko Kusanagi, Shing-Jen Chen, Mayumi Adachi, & Hitoshi Takamura 掲載頁：367-368 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
19. Influence of food intake and exposure to heavy metals on the development of temperament in Japanese children	共著	平成27年9月	17 th European Conference on Developmental Psychology	<p>子どもの毛髪分析により重金属曝露を、また食事調査からダイオキシン曝露を推定し、子どもの気質発達における影響を見た。結果、これらの曝露は子どもの気質発達に影響しないことが明らかとなったが、子どもの簡便な食事習慣等は子どもの気質発達に影響することが判明した。</p> <p>著者：Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Hitoshi Takamura, Shing-Jen Chen, & Mayumi Adachi 掲載頁：352-353 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
<p>(その他) (学会発表) 20. 子どもの生育環境と発達 — 遺伝と環境の新しい視座 —</p>	共著	平成28年4月	日本発達心理学会第27回大会	<p>子どもの生育環境と発達について微視的、巨視的、様々な視座からの学際的議論を深めるため、公衆衛生学、行動遺伝学、社会学、それぞれの研究領域の最先端で活躍する研究者が、子どもの発達における遺伝と環境の影響、或いはその相互作用の諸相について議論するシンポジウムにおいて、企画を行った。</p> <p>企画：草薙恵美子、星信子 司会：安達真由美 話題提供者：安藤寿康、岸玲子、阿部彩 指定討論者：遠藤利彦 掲載頁：AS2 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
<p>21. 子どもの気質と家庭生活の地域差 その2 —家庭・地域の養育環境及び親の信念について—</p>	共著	平成28年5月	日本発達心理学会第27回大会	<p>家庭の社会経済的状況、またソーシャル・キャピタルには地域差があり、特に中空知において子どもの生育環境としてリスクとなり得るような結果が得られた。</p> <p>著者：星信子、草薙恵美子、陳省仁、安達真由美、高村仁知 掲載頁：PF-7 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
<p>22. 子どもの気質と家庭生活の地域差 その1 —子どもの気質と基本的生活について—</p>	共著	平成28年5月	日本発達心理学会第27回大会	<p>日本5地域の子どもの気質について地域差を検討したが、有意な結果は得られなかった。しかし、家庭生活において、乳児期栄養、授乳期間、入浴や就寝を一緒にする家族メンバー等において地域に違いが見られた。</p> <p>著者：草薙恵美子、星信子、陳省仁、安達真由美、高村仁知 掲載頁：PF-6 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
<p>23. Influence of exposure to harmful metals on the development of temperament in Japanese children</p>	共著	平成28年8月	Conference of International Society for Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science - Asia Chapter 2016	<p>CBQ 下位尺度と有害金属の間の関連性を検討した。結果、鉛は子どもの気質発達に悪影響を、一方予想とは裏腹に水銀はよい影響を及ぼしていた。これは魚には水銀と同時に高濃度でオメガ3系不飽和脂肪酸が含まれているためではないかと思われる。</p> <p>著者：Emiko Kusanagi, Hitoshi Takamura, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, & Mayumi Adachi 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (学会発表) 24. Regional differences in and factors influencing children's play in Japan	共著	平成28年7月	31st International Congress of Psychology	<p>目的は、子どもの遊びの地域差と、遊びへの影響要因を探ることである。118名の子どもの遊びについての紙面調査データを1要因ANOVA分析した結果、外遊びのみに地域の主効果が認められた。また、性差のある遊びの性的指向性への金属暴露の影響を階層的回帰分析により検討したところ、重金属暴露の影響は見られなかった。</p> <p>著者: Emiko Kusanagi, Nobuko Hoshi, Hitoshi Takamura, Shing-jen Chen, Mayumi Adachi 掲載頁: プログラム p. 308 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
25. Japanese Children's Temperament from Early to Middle Childhood	共著	2019年3月	Society for Research in Child Development 2019 Biennial Meeting	<p>Temperament in Middle Childhood Questionnaire (TMCQ)の因子構造の妥当性及び、児童期初期から中期の日本の子どもの気質発達の様相を検討した。因子構造においてはLow Intensity Pleasure 以外の因子についての妥当性が確認できた。また、児童期前期から中期にかけての子どもの気質は比較的安定的であった。</p> <p>著者: Emiko Kusanagi, Yoshinobu Takahashi, Nobuko Hoshi, Shing-Jen Chen, Hitoshi Takamura, & Yusuke Moriguchi. 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>
26. 幼児期金属暴露の学童期気質発達への影響	共著	2019年9月12日	日本心理学会第83回大会	<p>幼児期子どもの金属暴露の学童期気質発達への影響について縦断的に検討した結果、金属暴露が気質発達に影響を与えることが明らかとなった。特に水銀暴露量は多くの気質尺度に影響していた。また、金属暴露の影響には性差がみられた。</p> <p>著者: 草薙 恵美子、高橋 義信、高村 仁知、星 信子、森口 佑介、陳 省仁 担当部分: 共同研究につき本人担当部分抽出不可能</p>